

明倫短期大学研究会講演抄録

2000年度から大学全体の研究会として発展している当会も、2001年度より、助手・補手も含めた教員スタッフ全員の研究会となった。まだ、研究会での発表に慣れていない方もいるけれども、歯科技工学・歯科衛生学（学問としての名称も定まっていはいないが）の学問としての確立をめざして共に研鑽を重ねてゆきたいものである。

なお本年度より、植木一範講師（歯科技工士学科）が世話人の一人に加わっている。出来るだけ早く、会則を含めきちんとした制度化をと考えている。

（文責 世話人 福島祥紘）

第52回：2001年1月11日（木）

本学の発展に向けて

内田 安信 学長

「本学の発展に向けて」を主題として、広く現在の大学を被う様々の問題と将来展望についてなどを、学術、政治経済、そして教育面、更には現下の歯科医療の現状にスポットを当てて総括し、翻って本学における実情とを対比し考察した。結論として本学発展に向けてのキーワードを万感の思いをこめて以下の如く結んだ。TopdownよりBottom up で活性化を、自己改革と意識改革で学生のための第3者の評価に堪えうる大学、情報公開で透明性ある大学、明るく元気なコミュニケーションのとれる普通の大学を目指したい。差し詰め若手研究者の育成と経済基盤の確立は喫緊の要事である。

第53回：2001年1月25日（木）

論文への理解を深めるために

新井 俊二 教授（歯科衛生士学科）

江川 広子 講師（歯科衛生士学科）

学術雑誌によって論文の種類が異なるので、私たちが論文を作成して学術雑誌に投稿するに当たり、論文の種類をどうするか戸惑うことがある。

今回は、江川先生に作成中の論文の原稿を提示してもらい、それがどの種類の論文に該当するかを討議し、その分類の根拠を探り、論文に対する理解を深めた。さらに原著論文を作成する場合の留意事項についてのまとめを行った。

第54回：2001年3月8日（木）

障害者の歯科診療（体験）実習報告

歯科衛生士学科専攻科医療衛生専攻（第1回生） 西山 祐子
金子 真理

医療衛生専攻の研究ゼミおよび臨床実習の一部として、一週間の内の午後1ないし2日、昨年6月より本年2月までの8ヶ月間、新潟県歯科医師会障害者歯科センターにおいて、障害者の歯科診療補助、予防処置、保健指導などを体験することが出来た。そこで我々の実習記録を資料として、臨床実習体験の一部を、実習期間中に経験できた症例と実習内容としてまとめ、障害の種類と症例数、障害者の年齢別症例数、診療内容と経験数、経験した対応方などについて報告した。

アクリルレジンの細胞毒性試験

歯科技工士学科専攻科生体技工専攻（第1回生）

伊藤 圭一、伊藤 隆章、大塚 章弘

歯科材料であるアクリルレジンの細胞毒性試験を、MC3T3-E1細胞を用いて行った。試験材料のアクリルレジンは、ジーシーアクロン（加熱重合レジン）、ジーシーユニファスト（即時重合レジン）を使用し、試験試料条件はアクロンが加熱重合後・餅状化状態、ユニファストは練和直後とした。毒性評価は、①顕微鏡的細胞障害度と、②細胞増殖阻止円の径（ノギスによる計測）によって行った。結果、細胞障害度、阻止円の径ともに即時重合レジン練和直後が最も高く、ついで加熱重合レジン餅状化状態、加熱重合後の順となった。以上の結果を報告した。

第55回：2001年3月22日（木）

歯科技工士の現状 平成12年度日技会員 実態調査報告より

藤口 武 助教授（歯科技工士学科）

国民の歯科への要望が高まり、医療職である歯科技工士の資質向上が求められているが、昨今の歯科技工士が置かれている環境について日本歯科技工士会が行った平成12年の実態調査報告内容から歯科技工士の現状について報告した。

歯科技工士の就業実態や需給に関し厳しい現状であることを踏まえ、これからの技工業界で活躍できる卒業生を出すために、人間性の確立のもとより歯科技工に関する知識、技術をより高度で付加価値を持たせな